

『#チェーン・ディザスターズ』（高嶋 哲夫著）を読んでみた。

著者は慶應義塾大学工学部卒業、日本原子力研究所研究員を経て、カリフォルニア大学に留学。79年、日本原子力学会技術賞を受賞。94年「メルトダウン」で第1回小説現代推理新人賞、99年「イントゥルーダー」で第16回サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞。

21世紀の近未来の7月に、南海トラフ巨大地震が発生し、日本列島の太平洋岸は壊滅状態になる。近畿、東海、四国地方に留まらず、追い打ちをかけるように東京直下型地震が発生する。若き女性環境大臣Sは、特に被害が大きかった愛知へ向かった。名古屋の地元IT企業がAI技術を駆使して開発したソフトによって、迅速な行方不明者の捜索と救助、避難所運営がおこなわれていた。さらに8月には、過去最大級の大型台風が首都圏を襲い、ビル群は崩れ落ち、経験豊かな閣僚の大半が亡くなり、苦渋の選択の結果、Sが史上最年少で総理大臣に抜擢される。さらに富士山が大噴火する。まさに大災害の連鎖（チェーン・ディザスターズ）である。Sは、IT企業に協力を仰ぎながら、日本最大の危機に立ち向かうことになるが、崩壊しかかった日本を救うことができるのか。

日本の天災の被害はここまで悲惨なものになるのか。

南海トラフ地震が発生した場合、静岡県が最も被害が大きいと想定されている。次いで和歌山県、高知県、三重県。南海トラフ地震では、九州から関東にかけて広い範囲で震度6弱以上の揺れが発生する。また、液状化の危険度も高く、愛知県では名古屋駅を含む西側のエリアで最大規模の液状化被害が発生する。

南海トラフ地震の最悪のケースは、東側と西側の震源域が時間を空けてずれ動く「半割れ」である。こうなると、連続して巨大地震が発生する可能性があり、被害が拡大する。

救援活動が遅れる、復旧が困難になる、電気・ガス・水道などのライフラインがストップする、支援物資が届かないとなると、最悪1) 死者数：30都府県で約32万3千人、2) 全壊棟数：約238万6千棟、3) 経済的損失：100兆円を超える。

南海トラフ地震は、過去に100～150年間隔で繰り返し発生。1946年の昭和南海地震以降70年以上が経過しており、今後30年以内に発生する確率は70～80%。

富士山噴火の最後の大噴火は、宝永四年（1707年）、旧暦の11月23日、今から約300年前。そう遠くない将来、将来的には必ず噴火をする。内閣府防災情報によると、富士山が宝永大噴火と同じ規模で噴火した場合、死傷者は約13,600人と想定されている。そして次のような被害が想定される。1）火山灰による気管支喘息や角膜剥離などの健康被害、2）道路や交通網の混乱、停電などの首都機能の麻痺、3）建築物の倒壊や農作地の耕作不能化、4）山林・草地の荒廃、5）用水路・河川の氾濫。

また、南海トラフ地震と富士山噴火が同時に発生した場合、想定死者数は約34万人と試算されている。